

ネオコン・シオニスト陰謀団に完全に乗っ取られたトランプ プ対外政策

いったい何が起こったのか？

【訳者注】トランプの就任以来の、奇怪とも裏切りとも思われる言動が、納得いくように説明されていると思う。要するに、アメリカ大統領というものにほとんど権力がないということ、彼も我々も知らなかったということである。論者もやや誤解していたようである。かつて、ロナルド・レーガンが大統領になったときも、彼はその役職を過大評価していたと、彼のアドバイザーだったP・C・ロバーツが言っているのを読んだことがある。しかしトランプの場合は特別で、就任と同時に、なすすべもなくNWOの巨大な歯車にギリギリ巻き込まれていった、というべきであろう。彼を責めたりすることはできない。逆にこれを通じて、いかに深層国家の深層構造がどうなっているのか（特にイスラエルとの関係）、どれほどに深刻な状態に追い込まれているのが、それが創り出している世界戦争の危機と共に、今ようやくわかってきた。

State of the Nation

June 28, 2017



もし疑わしさがまだあったとしたら、今、それはなくなった。

トランプの中東に対する対外政策は、“拡大イスラエル”計画として知られるイスラエル-サウジの合同計画と完全に合一した。この密かな計画は、アメリカ、イギリス、フランス、

ドイツ、イタリー、および他の主要な NATO 軍事メンバーに、全面的に支援されている。
「“拡大イスラエル”：中東を手に入れるためのシオニスト計画」

<http://themillenniumreport.com/2015/12/greater-israel-the-zionist-plan-for-the-middle-east/>

トランプは就任演説以来、“拡大イスラエル”を創る隠れた謀略を阻止しようとする、たった一つの行動をも取らなかった。逆に、彼の政府の取ったあらゆるイニシアティブは、この計画の推進のためとしか考えられない。4月14日のシリアに対する不法なミサイル攻撃は、明らかに、この高度に破壊的な計画への、トランプの、大統領としての支持宣言であった。

「トランプ - ハルマゲドン：アメリカのシリア・ミサイル攻撃の背後にある本当の物語」

<http://stateofthenation2012.com/?p=70849>

この急速に後退しつつある情勢は、いま全く危険な状態にある。トランプの選挙運動時の、戦争のエスカレートを抑え、戦争商売を廃止するという約束から考えれば、彼の対外政策の実行は、正確に逆方向へ向かっている。その政府内部で、彼の娘婿がますます重んぜられていることは、地球的な地政学的チェスボードでの、トランプのあらゆる間違った動きに、並行するものである。ジャレド・クシュナーが、イスラエルに利用されて、トランプの絶えず変わる独占的チェス盤上の、一つひとつの間違った行動を指令しているものと思われる。こういうことだろうか？——**イスラエルのクシュナー家がいま、トランプ政府を NWO グローバリストのために動かしている**：<http://stateofthenation2012.com/?p=71449>

ある人々は、トランプの度々公言された外交政策の約束の根本的な逆転を、クーデタとさえ呼んでいる：「トランプのホワイトハウス内部の“クシュナー・クーデタ”」

<http://stateofthenation2012.com/?p=71059>

ネオコン・シオニスト／深層国家

西ウィング（ホワイトハウス執務室）の、ネオコン・シオニストはわずかだとしても、その代理要員はいくらでもいる。ネオコン陰謀団の戦争屋が、彼らの ISIS とアルヌスラ・フロント代理兵を通じて、シリアに戦争を仕掛けてきたように、彼らは場所ごとに配置した政治的代理要員を使って、トランプに影響を与え、コントロールしようとする。彼はホワイトハウスに入ったその日から、深層国家のこれらのエージェントによる激しい攻撃にさらされてきた。

ネオコンたちは厳しいスケジュールを守っており、より強力な力（プーチンのロシアを考え

よ)による以外には、拘束されることはない。トランプ自身は、彼の平和のミッションに対してあまりにも劇的な転換を行ったので、それは深層国家の圧倒的にネガティブな影響力に呼応するものになっている。実は、ホワイトハウスに入るのがどんな人物であろうと、深層国家の無数のエージェントによって、四六時中、完全に包囲されているのである。

トランプはこのような非常に不幸な窮状に置かれている。彼が自分の選挙前に、この確実な運命を知っていたかどうかはわからない。彼の選挙運動期間中の信念は、全く純粋なものに見えた。彼の就任演説もそうだった。とすると何が起こったのか？

この地球上で、深層国家の命令に逆らうことのできる者はいない。彼らは、この地球惑星の隅々までを所有し運営している。プーチンの率いるより独立したロシア連邦でさえ、“ロスチャイルド支配するロシアの中央銀行”という形で、彼らの絶え間ない干渉に、あらがわなければならない。

ここでキーポイントは、トランプの最初の意図にもかかわらず、彼は、ホワイトハウスに入ったとたんに、深層国家とネオコン・シオニストに乗っ取られたということである。この特定の問題について、自分のアジェンダを実行できないからといって、彼を責めることはできない。深層国家は、どんな大統領であろうと、彼らの **New World Order** アジェンダから逸脱することを、許すことはできないのである。

イスラエルの支配

古い(本当の)の話として、イスラエルがアメリカの対外政策を支配していると言われており、それはおおよそ、こういうことである：——ユダヤのカネと、彼らの主流メディア支配は、誰でもイスラエルを支持する者のために用立てられるであろう。言い換えると、その人の政治的信条はどうであれ、またビジネスの内容や社会的活動、あるいは犯罪歴などに関係なく、シオニストたちは、イスラエルとの間に相互の利益さえあるなら、それを支持する。この取り決めが前提としているのは、“現代イスラエル国家”の果てしない拡張に、いかなる抵抗をも示さないということである。

逆に言えば、誰であろうと、どんな団体であろうと、現代イスラエル国家の政策や行動に抗議する者は、罰を受けてもらう、しかも厳しく罰せられるということである。トランプは、選挙される前にこの特定の教訓を、十分に学んだ——彼は、アッシュケナージ・ユダヤ人の銀行家やブローカー、法律家や政治家、実業家や開発事業家、ジャーナリストや代理業者などによって、“作られた”からである。確かに彼は、我々の誰よりも事情をよく知っている。

「トランプ 4 世代のユダヤとの絆」 <http://stateofthenation2012.com/?p=72545>

しかし、トランプ自身は何であるより前にビジネスマンである。非常に知名度の高いビジネスマンとして、彼は自分のことを、独立オペレーターと考えたふしがある。エゴは我々を騙して、明らかにそうでないもの（自分の役職など）を誤解させることがある。にもかかわらず、彼のホワイトハウスへの行程の全体は、彼を大統領芸人として使おうとする者たちによって、念入りに用意されたものだった。このようにして彼は、自分を独自の人間と考えながら、苦勞してワシントン DC へ行きついたが、実は彼は、“拡大イスラエル” 計画の隊長として、知らぬ間に仕立てられていたのだった。

イスラエルのような小さな国は、毎日、生存の脅威に直面しているわけだから、純粋な絶望から行動することがしばしばある。その一つの結果として、トランプは今、ジレンマに立たされ、しかも全く身動きがとれない。彼の秘密のスポンサーたちは、アメリカ人の必要よりも、イスラエルの必要を優先するように、うまく彼を強制している。

トランプの運命

急速に展開する中東のシナリオの下で、トランプは、戦争か平和かの 2 つのオプションに直面している。その中間は方法的に除外されているから、どちらかを選ぶしかないだろう。ネオコンたちは確かに彼の短い髪をつかんでいる——しかも彼自身も予期しなかった、予期できなかったやり方で。したがって、彼が自分の本当の指導者たち——彼の成功の生涯を通じて、彼を作った（財政的に）人々——に従わなければならない時が、すぐにもやってくるだろう。

いついかなる瞬間にも、トランプ大統領は、アメリカ経済の全面的メルトダウンに直面する可能性がある、と理解しておくことが肝要である。今日の支配的な情勢は、2007 年の不動産の崩壊にも、2008 年の株式市場の急落にも、完全に似ている。ここから、もう一つの解体が、金融操作をする者たちによって、いつ行われてもおかしくないことがわかる。そして彼らは間違いなく、彼にそのことを知らせている。

また、トランプを背後から支配する者たちが、彼の長い過去における、身の上を危険にする材料によって、彼をゆすったという非常に現実的な可能性もある。彼は極端に衆目にさらされて人生を送ってきたから、多くの場合に、彼の行動はたやすく誤解されやすい状況下にあった。言い換えると、深層国家のエージェントたちは、トランプに現実の罪はなくても、ゆすり可能な犯罪をでっちあげるとは、非常に簡単だということである。CIA と FBI は常にニセ証拠を作っている——特に、無実だが非常に“危険な”、たまたま大統領をやっている男を罪に落とすニセ事件を、でっちあげることなど簡単だ。

深層国家のコントロール機構が、現大統領、あるいは大きな権力の座にある誰をでも、従わせるのに使える多くの他の手段がある。ここで肝心の点は、彼らはどのようにしてか、トランプを捕まえたということだ——New World Order アジェンダに歴然と従わない者は、誰でもそのようになっただろう。とはいえ、トランプにおいて、彼らは、通常の道に行くことを拒否する暴れ馬をもっただけでない。彼は、地球的経済・金融システムの解体屋の役をやするように選ばれたのだった。破産芸術家として、彼ほどこの仕事に打ってつけの者はいない。

「トランプ：NWO 陰謀団の核オプション——アメリカ有限会社の破産宣言の予定」

<http://stateofthenation2012.com/?p=37500>

中東の泥沼へ逆もどり

イスラエルとサウジアラビアが、常に尻がくっついてきたことを、どれだけの人が知っているだろうか？ サウジアラビアを何十年も支配してきた、暴君的なワッハビ王政が、実はユダヤ起源であると誰が信ずるだろうか？ サウジ王族の真の歴史は、歴史の本や主流メディアによって明かされたことはない。しかしドナルド・トランプは、サウド家の系統図のユダヤ起源を十分に知っている。 <http://themillenniumreport.com/2015/12/is-the-saudi-royal-family-jewish/>

信じない多くの人のために、次の説明は、いま明るみに出つつある深い秘密を暴露するものである。「サウド家：そのユダヤ起源と英国王家によるその配置」

<http://themillenniumreport.com/2015/12/the-house-of-saud-its-jewish-origin-and-installation-by-the-british-crown/>

サウド家について、他にいくつか暴露事実があり、それは、彼らのイスラエルとの関係が、なぜ、これほど親密で友好的なのかを説明する。上と下のリンクのそれぞれは、異なった観点から、なぜドナルド・トランプが、サウジアラビアについての彼の立場を、完全に逆転させたかを説明する。彼は最初、サウジ政府が9・11 テロ攻撃における、彼らの重要な役割を調査するように求めていた。が、次に彼は、彼らとの1,000億ドルの防衛取引に署名している。その理由はここに述べてある——「“サウジ”の王族はユダヤ人か？」

<http://themillenniumreport.com/2015/12/is-the-saudi-royal-family-jewish/>

今、なぜ中東がこのような、終わることのない火事続きなのかが、これによって理解できるであろう。中東は泥沼として、そこに入る誰をも確実に吸い込み、しかも重大な結果を伴う

ものとして創られている。どんな西側の強国も、アメリカほどこの地域に大きく投資している国はない。これこそ、トランプが、これほど奇妙な振舞いをしている理由であり、彼はこれを、何か非常に**大きなこと**が起こって、ゲーム全体を変えてしまうまでは、継続するであろう。公言した意図とは反対に、トランプが中東の平和を確保できるとは思えない——それが地球上でただ一つ、最も競争の激しい、浮動的なモノポリー・ボード（独占ゲーム）である限りは。

結論

このすべてがどうなるのか誰も知らない。確かにトランプは知らない。深層国家も知らない。ロシアの大統領プーチンも知らない。諸国家の世界共同体全体が、感じ取れるほどの怖れと不安な予想をもって見つめている。

それは、中東のゲーム盤には、あまりにも多くの危険を感じるプレイヤーがついていて、結果を予測することができないからである。誰も未来に何が待っているか知らないのは、フライパンのケーキのように、表と裏が入れ替わるプレイヤーがあまりに多いからである——トルコ…カタール…フィリピン…

実は、シオニスト - アングロ・アメリカ枢軸全体が、全体的に乱れた状態にある。そしてそれはよいことだ。

しかし、一つ確実なことがある。トランプとプーチンが共に十分よく知っていることは：

中東に平和があるときに初めて
世界中に平和が存在できる。

この正しい理解があれば、なぜ深層国家が、馬鹿げた“ロシアゲート”陰謀について、あれほどのフェイク・ニュースを作りあげたかが、理解しやすくなるだろう。時の権力は、もしトランプとプーチンが、世界平和を共通の大義にするようになれば、この惑星の文明は、一昼夜で変わってしまうことを知っている。そして深層国家は、9・11の世界貿易センターのように、自分自身の足元へと崩壊するであろう。